

「人権感覚を磨く」とよく言われます。でもどうすれば磨くことができるのでしょうか。私たちの持っている常識の多くは、社会の中でつくりあげられたものではないかと思えます。その常識といわれる事柄のなかに、間違った常識が存在することを意識することから始まるのではないのでしょうか。

昨年、西条市差別をなくする市民の集いで、露の新治さんのお話を聞く機会がありました。はっとすることや感銘するお話も多く、その会場で、露の新治さんの本を購入しました。その一部を紹介します。

○車の渋滞、「渋滞に巻き込まれた」と言うけれど、自分の車も渋滞の一部。でも自分のことは棚に上げて、「何で今日に限ってこんなに混むの」（あんたが来るからや）

○エレベーターに乗った時のことです。重量オーバーで「ピーッ」と鳴ったとき、最後の一人が総責任者にされる。最後に乗ってきた人も、自分が鳴らしたと思っ

て謝ってしまう。（いや、あんた一人で鳴らしたんや おまへんで。乗ってるもん全員で鳴らしたんや。むしろあんたは、我々が乗っていたために、閉め出された被害者や。被害者が謝るのはおかしいですよ）

講演を聞きながら、市内の駐車場での出来事を思い出しました。車が「思いやり駐車場」へ駐車しました。車の中からは、女子中学生と祖父・祖母が降りてきました。女子中学生は、祖父に、ここに駐車してはいけない、場所を変えてと一生懸命訴えています。祖父は、何か一言言って店の中に入っていました。私は離れた場所から通りすがりに見ていましたので、話の内容までは分かりません。しかし、この女子中学生は、日常生活の中で、人権感覚を磨き、自然に実行に移しています。私は嬉しくなりました。と同時に反省させられました。

誰もが平等で幸せな生活ができる社会を望んでいます。お互いの人権を尊重し、自分の権利と同じように他人の権利も認め合っていく社会を築いていくことが大切ではないでしょうか。

熱中症にご注意ください!

今年も暑い季節がやってきました。昨年の夏は、高知県四万十市で41℃と観測史上最高気温が観測されました。また、全国各地で熱中症による救急搬送がテレビ等で多く取り上げられ話題になりました。症状はめまい・脱水症状・頭痛・吐き気等を発症し、重症化すれば意識障害やショック症状、時には臓器障害等により死に至ることもあります。熱中症は普段からの予防が大切です。こまめな水分・塩分補給や十分な休息をとることである程度防

ぐことができます。発症すれば体を冷やす・涼しい場所へ移動する等の応急手当を行い速やかに医療機関を受診し、必要であれば救急車を呼ぶことが重要です。

応急手当を身につけて、いざという時に適切な行動がとれるよう準備しておきましょう。



海の事故ゼロキャンペーン 全国海難防止強調運動 7月16日(水)～31日(木)

「海難ゼロへの願い」をスローガンに、海難防止思想の普及・高揚を図ることにより、海難の発生防止を目的に実施しています。

【重点事項】

- ①見張りの徹底および船舶間コミュニケーションの促進
- ②プレジャーボートの発航前点検の徹底
- ③ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保



今治海上保安部
海難防止強調運動今治地区推進連絡会議

マリレジャー集中安全推進活動期間 7月1日(火)～8月31日(日) プレジャーボート等に対する積極的指導・取締期間 7月1日(火)～8月31日(日)

海難・人身事故防止を徹底するため、集中的な安全推進活動を実施するとともに、プレジャーボートなどの無検査運航等の法令遵守を軽視した行為に対する積極的な指導・取り締まりを実施します。また、「海で安全に楽しく遊ぶために～大切な命を自分で守る～」をテーマに、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進します。

- 【浮力確保】 ①ライフジャケットの常時着用
- 【速やかな救助要請】 ②防水バック入り携帯電話などの連絡手段の確保
- 【海の事件・事故は118番】 ③海上保安庁への緊急通報用番号「118番」の有効活用

今治海上保安部警備救難課 TEL0898-22-0118